慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	吉野俊彦編 経済成長と物価問題
Sub Title	
Author	丸尾, 直美
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1962
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.55, No.12 (1962. 12) ,p.1132(88)-
JaLC DOI	10.14991/001.19621201-0088
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19621201-0088

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

用の側面でのみとらえられることは、株式制度の一面的理解でしかない。従って著者のレーニン批判にもかかわらず、レーニンのヒルファディング批判の理論的意義はそのまま、本書の場合にも強調されなくてはなるまい。

総じて、本書は金融資本への道を実証的に分析する側面（とくに最終節）では、現在のこの領域の研究水準からみて不十分さをまぬがれ難いが、貫く理論的問題意識は今後具体的な分析とあいまって充分の検討を必要とするのではないだろうか。（ミネルヴァ書房・B6・二四二頁・四六〇円）

—飯田裕康—

＊　＊　＊

吉野俊彦編

『経済成長と物価問題』

本書は、日本銀行調査局の佐藤隆、石川通達、鈴木淑夫、和栗俊介四氏の研究を吉野氏が責任編集し、体系化したものである。全体は五つの章と、吉野氏自身によるあとがきから成っている。

まず第一章は、「経済成長と物価安定」と題されており、物価安定がなぜ必要かが論じられている。第二章では、「戦後におけるわが国の物価動向」が、第三章では「最近における新しい物価問題」が考察され、第四章では「物価変動の諸要因」が分析されている。第五章では「望ましい物価安定」とは何かということと、物価安定のための対策とが述べられている。第六章と第七章では、それぞれ「欧米における物価動向」と、「欧米における物価問題の考え方」が紹介されている。

以上が本書の内容であるが、本書全体の基調となっている考え方は、吉野氏もあとがきで述べているように、次のようなものである。

第一に、物価安定は成長のためにも必要であること、したがって、成長のためには物価上昇は止むを得ないという安易な態度を排し、消費者物価の安定を目標とすべきだということ、第二に、最近の日本のインフレの主因は、やはり広い意味での需要圧力だから、物価安定のためには——いろいろ綜合的な措置が必要ではあるが——、「金融政策の働く余地が、なおかつ大である」ということ。

本書はこのように、需要圧力をインフレ要因として重視しているためか、インフレの構造的要因の分析とか、有効需要不足型の経済に生じうるインフレについての検討は十分でない。たとえば、本書では、物価安定が成長のためにも必要だと述べられているが、物価の漸騰が低成長を補なうことによって不況阻止の役割を果たしているという論（N・カルドア）とか、市場のオリゴポリー化や産業構造の変化に伴う物価騰貴の問題とかは軽視されている。しかし、本書が、今日のわが国のインフレ問題の検討を中心としている以上、この点は止むを得ないとも考えられる。日本の最近のインフレ問題を解明した書としてみる限り、本書は抱括的であり、その分析もすぐれているといえるであろう。（春秋社・昭和三七年九月刊・A5・二八六頁・四八〇円）

—丸尾直美—